

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 10-166683

(43) Date of publication of application : 23.06.1998

(51)Int.Cl. B41J 21/00
B41J 3/36
G06F 3/12

(21) Application number : 08-336997

(71)Applicant : KING JIM CO LTD
SEIKO EPSON CORP

(22) Date of filing : 17.12.1996

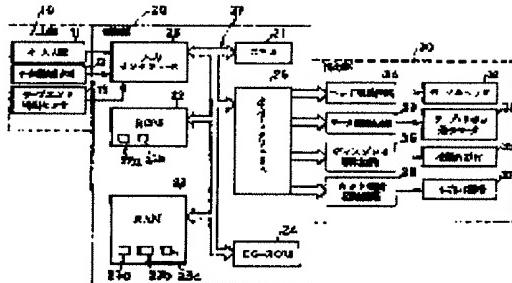
(72)Inventor : WATANABE KENJI
NIIMURA TOMOYUKI
KAMEDA TAKANOBU
AJIDA CHIEKO
KURASHINA HIROYASU
HOSOKAWA TAKESHI

(54) CHARACTER INFORMATION PROCESSOR

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve the convinience of use functions regarding the address such as the address input function and address printing function by using an address file control table, discriminating the address file from other character string files stored in the same area in a storage means, controlling and editing.

SOLUTION: As address data can be used as an address file to be distinguished from other character string files, register and control. Namely, when an address file processing mode is retained by the operation of address keys of a key input section 11 or the selection from a menu, processing is started by a CPU 21, and the kind of actual processing for the address file is selected and discriminated. When the registration, modification, erasing, copying and printing of the address file are selected respectively, the registration, modification, erasing, copying and printing are carried out respectively. The selection is easy and convinience of use is good.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 23.02.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or

[application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3367850

[Date of registration] 08.11.2002

[Number of appeal against examiner's decision of
rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

*

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-166683

(43)公開日 平成10年(1998)6月23日

(51)Int.Cl.^o
B 4 1 J 21/00
3/36
G 0 6 F 3/12

識別記号

F I
B 4 1 J 21/00
3/36
G 0 6 F 3/12

Z
T
F

審査請求 未請求 請求項の数7 O.L (全18頁)

(21)出願番号 特願平8-336997
(22)出願日 平成8年(1996)12月17日

(71)出願人 000129437
株式会社キングジム
東京都千代田区東神田2丁目10番18号
(71)出願人 000002369
セイコーベンソン株式会社
東京都新宿区西新宿2丁目4番1号
(72)発明者 渡邊 健二
東京都千代田区東神田2丁目10番18号 株式会社キングジム内
(72)発明者 新村 朋之
東京都千代田区東神田2丁目10番18号 株式会社キングジム内
(74)代理人 弁理士 工藤 宣幸

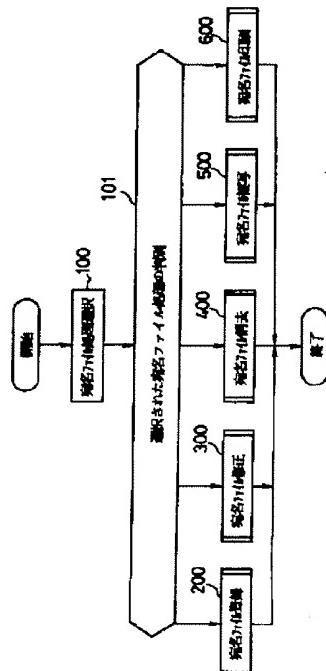
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 文字情報処理装置

(57)【要約】

【課題】 宛名処理に関する使い勝手をより良好にした文字情報処理装置を提供する。

【解決手段】 本発明の文字情報処理装置は、宛名ファイルと他の文字列ファイルと同じ格納領域内に記憶する記憶手段と、管理番号と、当該管理番号に宛名ファイルが登録されているか否かを表す登録フラグと、当該管理番号の宛名ファイルの記憶手段上の格納場所を表すアドレス情報と、当該管理番号の宛名ファイルが現時刻に最も近い前の時点で編集がなされたか否かを表す直近フラグとからなる宛名ファイル管理テーブルと、宛名ファイル管理テーブルを用いて、記憶手段の同じ領域内に記憶された宛名ファイルと他の文字列ファイルと区別して管理、編集する宛名ファイル編集管理手段とを有する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 印刷媒体の幅方向に制約があって、数行程度の入力文字列しか印刷を実行できない文字情報処理装置において、

宛名ファイルと他の文字列ファイルと同じ格納領域内に記憶する記憶手段と、

管理番号と、当該管理番号に宛名ファイルが登録されているか否かを表す登録フラグと、当該管理番号の宛名ファイルの上記記憶手段上の格納場所を表すアドレス情報と、当該管理番号の宛名ファイルが現時刻に最も近い前の時点で編集がなされたか否かを表す直近フラグとからなる宛名ファイル管理テーブルと、

上記宛名ファイル管理テーブルを用いて、上記記憶手段の同じ領域内に記憶された宛名ファイルと他の文字列ファイルと区別して管理、編集する宛名ファイル編集管理手段とを有することを特徴とする文字情報処理装置。

【請求項 2】 上記宛名ファイル編集管理手段が、宛名ファイルの登録を行なう登録部と、宛名ファイルの修正を行なう修正部と、宛名ファイルの削除を行なう削除部と、宛名ファイルの複写を行なう複写部とを有することを特徴とする請求項 1 に記載の文字情報処理装置。

【請求項 3】 上記記憶手段に記憶されている宛名ファイルの印刷を指令する宛名ファイル印刷指令手段と、印刷が指令された宛名ファイルを、全ての宛名ファイルに共通な印刷属性に従って印刷する宛名ファイル印刷手段とをさらに有することを特徴とする請求項 2 に記載の文字情報処理装置。

【請求項 4】 上記宛名ファイル印刷指令手段が、登録されている宛名ファイルの全ての印刷指令と、登録されている宛名ファイルの一部の印刷指令とのいずれをも取り込めるものであることを特徴とする請求項 3 に記載の文字情報処理装置。

【請求項 5】 上記登録部及び上記修正部は、宛名を構成する項目毎に文字列を取り込むフォーム入力方法に従つたものであることを特徴とする請求項 2～4 のいずれかに記載の文字情報処理装置。

【請求項 6】 上記フォーム入力方法によって、新規入力、修正入力された宛名文字列において、会社名、部署名及び氏名の項目のうち、文字列が存在する宛名としての最終項目の種類に応じて、その最終项目的文字列に敬称を表す文字を自動付加する敬称自動付加手段を有することを特徴とする請求項 5 に記載の文字情報処理装置。

【請求項 7】 新規入力、修正入力の処理中において、郵便番号項目の入力から住所項目の入力に移行したときに、入力された郵便番号に応じて、住所を構成する行政区画を表す文字を自動発生する郵便番号／行政区画変換手段をさらに有することを特徴とする請求項 6 に記載の文字情報処理装置。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】 本発明は文字情報処理装置に関する、特に、入力された1行以上の文字列をテープに印刷するテープ印刷装置や、入力された1行以上の文字列に係る凹凸を有するスタンプを作製するスタンプ作製装置に適用して好適なものである。

【0002】

【従来の技術】 テープ印刷装置は、ユーザオリジナルのラベルを簡易に作成できるようになされたものである。

【0003】 従来のテープ印刷装置は、操作パネル上に

- 10 文字入力用のキー等が配置され、これら文字入力用のキーを操作して所望の文字列を予め入力できるようになされている。また、テープ印刷装置は、テープ送り機構を駆動することにより、テープ排出口からテープを送り出すことができるよう形成され、このテープの通路に、サーマルヘッドでなる印刷機構、テープカット機構が順次配置されるようになされている。テープ印刷装置の制御手段は、印刷キーが操作されると、テープ送り機構を制御してテープを所定速度で送り出せると共に、印刷機構を制御してこの送り出されたテープに予め入力された文字列を印刷させる。さらに、テープ印刷装置の制御手段は、文字列の印刷を終了したときにも、テープ送り機構を連続制御して、印刷されたテープ部分が装置外部にまでテープを送り出させ（空送り）、その後、テープの走行を停止させる。ユーザが、テープ走行の停止後、テープカット機構を操作することにより、又は、自動カット機構の動作により、所望の文字列を印刷してなるユーザオリジナルのラベルが得られる。

- 20 【0004】ところで、テープ印刷装置によって形成されたラベルの用途は種々あるが、手紙や葉書の宛名ラベルとして用いられることが多い。宛名は郵便番号、住所、会社名、氏名などの決まった項目からなるので、各項目毎に文字列を入力させ、ラベル上でのその各項目の文字列の配置を装置に任せりいわゆるフォーム入力の対象とされているものが多い。また、フォーム入力により入力された宛名データは、通常の入力データのようにファイルとして管理されているものもあり、その際、フォーム入力された宛名データを通常の入力データに変換して、ファイルとして登録している。

【0005】

- 40 【発明が解決しようとする課題】しかし、このようにした場合には、登録ファイルとして、宛名データのファイル（以下、宛名ファイルと呼ぶ）と、通常の入力データによるファイル（以下、他の文字列ファイルと呼ぶ）とが混在しているので、任意の宛名ファイルを編集又は印刷しようとした場合、混在ファイルから該当する宛名ファイルを抽出する作業が煩雑となる。また、通常の入力データに変換されている宛名データを修正しようとした場合、フォーム上での修正を実行できず、十分に注意をしなければ、修正部分以外の項目の文字列や配置をおかしくする恐れもある。

【0006】一方、宛名ファイルと他の文字列ファイルの登録する領域を各々別の領域とする方法も提案されているが、この場合は予め各々を登録できる領域を固定してしまうので、どちらかのファイルが極端に多くある場合などに、メモリ上は空き領域があるにもかかわらず、その場所に登録できない、などのメモリ上の利用効率を低下させるという問題点も生じる。

【0007】本発明は、以上の点を考慮してなされたものであり、宛名入力機能や宛名印刷機能等の宛名に関する機能面での使い勝手をより良好にした文字情報処理装置を提供しようとしたものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】かかる課題を解決するため、本発明は、印刷媒体の幅方向に制約があつて、数行程度の入力文字列しか印刷を実行できない文字情報処理装置において、宛名ファイルと他の文字列ファイルとを同じ格納領域内に記憶する記憶手段と、管理番号と、当該管理番号に宛名ファイルが登録されているか否かを表す登録フラグと、当該管理番号の宛名ファイルの記憶手段上の格納場所を表すアドレス情報と、当該管理番号の宛名ファイルが現時刻に最も近い前の時点で編集がなされたか否かを表す直近フラグとからなる宛名ファイル管理テーブルと、宛名ファイル管理テーブルを用いて、記憶手段の同じ領域内に記憶された宛名ファイルと他の文字列ファイルと区別して管理、編集する宛名ファイル編集管理手段とを有することを特徴とする。

【0009】本発明の文字情報処理装置において、記憶手段は、宛名ファイルと他の文字列ファイルとを同じ格納領域内に記憶し、宛名ファイル管理テーブルは、管理番号と、当該管理番号に宛名ファイルが登録されているか否かを表す登録フラグと、当該管理番号の宛名ファイルの記憶手段上の格納場所を表すアドレス情報と、当該管理番号の宛名ファイルが現時刻に最も近い前の時点で編集がなされたか否かを表す直近フラグとから構成され、宛名ファイル編集管理手段は、宛名ファイル管理テーブルを用いて、記憶手段の同じ領域内に記憶された宛名ファイルと他の文字列ファイルと区別して管理、編集する。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明をテープ印刷装置に適用した一実施形態を図面を参照しながら説明する。

【0011】(A) 実施形態の電気的全体構成

まず、この実施形態のテープ印刷装置の電気的な全体構成を、図2の機能ブロック図を用いて説明する。

【0012】図2において、このテープ印刷装置も、他の文字情報処理装置と同様に、大きくは、入力部10、制御部20及び出力部30から構成されており、制御部20が、入力部10からの情報やその時点の処理段階等に応じた処理を実行し、その処理結果等を出力部30によって表示出力又は印刷出力させるようになされてい

る。

【0013】入力部10は、詳細な構成は省略するが押下キーやダイヤルキー等を備えたキー入力部11と、テープ幅検出センサ12と、テープエンド検出センサ13とから構成されている。キー入力部11は、制御部20に与える文字コードデータや各種の制御データを発生するものである。テープ幅検出センサ12は、装填されているテープの幅を検出してテープ幅情報を制御部20に与えるものである。実際に、テープはテープカートリッジに収納されており、テープカートリッジにはテープ幅を規定する孔等の物理的な識別要素が設けられており、テープ幅検出センサ12はこの物理的な識別要素を読み取ってテープ幅情報を出力する。テープエンド検出センサ13は、テープのエンド（テープが終わったこと）を検出してテープエンド情報を制御部20に与えるものである。例えば、テープカートリッジからテープが引き出せないことによる張力の高まりを検出したり、又は、テープエンドに識別要素を設けておいてこの識別要素を検出したりすることでテープエンドを検出する。

【0014】出力部30は、印刷構成と表示構成とからなる。例えばステッピングモータでなるテープ・リボン送りモータ31は、装填されている図示しないテープやインクリボンを所定の印刷位置や装置外部まで送り出すものである。サーマルヘッド32は固定されていて、走行するテープに対して熱転写によって印刷を行なうものである。これらテープ・リボン送りモータ31及びサーマルヘッド32はそれぞれ、制御部20の制御下で、モータ駆動回路33やヘッド駆動回路34によって駆動される。印刷されたテープの切断のために、テープカット機構37が設けられており、このテープカット機構37は、制御部20の制御下で、カット機構駆動回路38によって駆動される。なお、ユーザからの外力によっても切断し得るようにも良い。

【0015】この実施形態に係るテープ印刷装置の場合、表示部として液晶ディスプレイ35が設けられており、この液晶ディスプレイ35は、制御部20の制御下でディスプレイ駆動回路36によって駆動され、入力文字列や各種の属性情報等を直接表示したり、装置本体のディスプレイ35周囲に記載されている属性（例えば、文字サイズや入力行等）を表す文字列に対応する属性のオンオフを示すインジケータを点灯したりする。なお、液晶ディスプレイ35としては、例えば、4行6文字を表示できるものが使用される。

【0016】制御部20は、例えばマイクロコンピュータによって構成されており、CPU21、ROM22、RAM23、キャラクタジェネレータROM(CG-ROM)24、入力インターフェース25及び出力インターフェース26がシステムバス27を介して接続されて構成されている。

【0017】ROM22には、各種の処理プログラム

や、かな漢字変換用辞書データ等の固定データが格納されている。RAM23はワーキングメモリとして用いられるものであり、また、ユーザ入力に係る固定データを格納するものである。RAM23は、電源オフ時にもバックアップされている。また、RAM23としては、装置本体が有するものに加えて、増設RAMが該当することもある。

【0018】ROM22に格納されている処理プログラムや固定データ、RAM23に格納されているデータ等については、後述の説明で詳述する。なお、ROM22には、後述する宛名ファイル用の処理プログラム22aや郵便番号／都道府県名変換テーブル22bが格納されており、また、RAM23には、印刷バッファ23aや表示バッファ23bや宛名ファイル管理テーブル23cが適宜形成される。このRAM23に、宛名ファイルが登録される。

【0019】CG-ROM24は、当該テープ印刷装置に用意されている文字や記号のフォント情報を格納しているものであり、文字や記号を特定するコードデータが与えられたときに対応するフォント情報を出力するものである。ここで、CG-ROM24に格納されているフォント情報は、アウトラインフォントであってもビットマップフォントであっても良い。また、表示用と印刷用とで異なるフォント情報を格納していても良い。

【0020】入力インターフェース25は、入力部10及び制御部20間のインターフェースを行なうものであり、出力インターフェース26は、出力部30及び制御部20間のインターフェースを行なうものである。

【0021】CPU21は、入力部10からの入力信号やそのときの処理段階に応じて定まるROM22内の処理プログラムを、RAM23をワーキングエリアとして利用しながら、また、必要ならばROM22やRAM23に格納されている固定データを適宜用いて処理するものであり、その処理状況や処理結果等を液晶ディスプレイ35に表示させたり図示しないテープに印刷させたりするものである。

【0022】(B) 宛名ファイルに関する処理
この実施形態は、宛名データをファイル（以下、宛名ファイルと呼ぶ）として、しかも、他の文字列に係るファイルとして区別して、登録、管理できるようにしたことに特徴を有するものである。

【0023】図1は、宛名ファイル用の処理プログラム22aを示すフローチャートである。キー入力部11の宛名キーが操作によって、又は、メニューからの選択によって、宛名ファイルの処理モードが指示されると、CPU21は、図1に示す処理を開始する。

【0024】そして、メニュー選択等によって、宛名ファイルに関する具体的な処理の種類を選択させて、その種類を判別する（ステップ100、101）。

【0025】CPU21は、宛名ファイルの登録処理が

選択されると、図3に詳細を示す宛名ファイルの登録処理を行ない（ステップ200）、宛名ファイルの修正処理が選択されると、図6に詳細を示す宛名ファイルの修正処理を行ない（ステップ300）、宛名ファイルの消去処理が選択されると、図7に詳細を示す宛名ファイルの消去処理を行ない（ステップ400）、宛名ファイルの複写処理が選択されると、図8に詳細を示す宛名ファイルの複写処理を行ない（ステップ500）、宛名ファイルの印刷処理が選択されると、図9に詳細を示す宛名ファイルの印刷処理を行なう（ステップ600）。

【0026】(B-1) 宛名ファイルの登録処理

次に、宛名ファイルの登録処理の具体的内容を図3のフローチャートを参照しながら詳述する。

【0027】CPU21は、宛名ファイルの登録処理に入ると、まず、登録するエリアを規定する管理番号を選択させる（ステップ201）。この実施形態の場合、装置本体のRAM23には最大100件、増設RAM23にも最大100件の宛名ファイルを登録できるようになされており、それぞれ、00～99の管理番号が付されている。なお、増設RAM23についての管理番号を表示する場合には、丸付き数字で表示し、装置本体の管理番号と区別するようにしている。

【0028】管理番号の選択処理においては、図4に示す宛名ファイル管理テーブル23cにアクセスして、未登録の若番の管理番号を初期候補として表示させ、その後、カーソル移動キー等によって次候補が指示されたときに候補を変更し、選択キーが操作されたときの管理番号を、これから入力される宛名データに係る宛名ファイルの登録エリアの番号とする。このような選択方法に加えて、数字入力による選択をも許容するようにしても良い。また、この管理番号の選択処理においては、宛名ファイルを登録できる空エリアがRAM23に存在することの確認も行なっている。

【0029】宛名ファイルに関する各種処理の際に適宜アクセスされる宛名ファイル管理テーブル23cは、図4に示すように、宛名ファイル管理番号のそれぞれに対応付けられている登録フラグ、先頭アドレス、データ長及び直近フラグからなる。

【0030】登録フラグは、その管理番号に宛名ファイルが登録されているか否かを示すものである。先頭アドレスは、宛名ファイルの先頭データが格納されているRAM23のアドレスである。データ長は、宛名ファイルのデータ長である。先頭アドレス及びデータ長によって、宛名ファイルが格納されているRAM23のエリアが特定される。直近フラグは、現時刻に最も近い前の時点で宛名ファイルの登録又は修正がなされた宛名ファイルを特定するものである。

【0031】CPU21は、上述のようにして、登録させる管理番号を選択させると、宛名ファイルの処理モードに移行する際に、入力文字列が存在していれば、その

文字列を入力バッファから消去させる（ステップ201、202）。この実施形態の場合、宛名ファイルの処理モードの入力文字列の入力バッファとして、通常の処理モードでの入力文字列の入力バッファと同じものを使用することとしているので、かかる処理ステップが必要となっている。

【0032】その後、郵便番号、住所1、住所2、会社名、部署名及び又は氏名の各項目について該当する文字列を入力させる（ステップ203、206、208、210、212、214）。ここで、各項目の入力時は、入力項目の変更が指示されたかを確認しており（ステップ204、207、209、211、213、215）、項目の変更が指示されたときには、入力項目を移行する。次項目の移行の指示は、例えば、カーソル下移動キー、又は、選択キー（氏名の場合を除く）の操作が該当する。一方、前項目の移行の指示は、例えば、カーソル上移動キー、又は、カーソルがその項目の入力ガイドに位置しているときの削除キーの操作が該当する。入力ガイドとは、例えば、「[」が該当し、これ以降に項目に該当する文字列が入力されていることを意味するものである。また、各項目に初めて入ったときには、入力文字列が存在しないので文字列の表示は行なわないが、2回目以降のその項目に入ったときには、それまでに入力されていた文字列を表示する。

【0033】ここで、郵便番号を除き、各項目の入力数は20文字と定められており、20文字を越える入力を受け付けないようにしている。なお、住所は、建物名等を記載して長くなることもあるので、上述したように、住所1と、住所2の2項目に分けている。

【0034】この実施形態の場合、郵便番号の項目から住所1の項目に移行した際には、郵便番号／都道府県名変換テーブル22bにアクセスして、郵便番号の上位2桁に基づいて都道府県名を取り出して、住所1について都道府県名が入力された状態に自動的にしてから（ステップ205）、住所1の入力を実行させる（ステップ206）。

【0035】氏名の入力状態において（文字列が実際に入力されているか否かを問わない）、選択キーが操作されると、CPU21は、登録実行確認メッセージを液晶ディスプレイ35に表示させた後、ユーザが操作したキーを判別して、登録実行が選択されたか取り消されたかを判別する（ステップ216）。ここで、登録実行が取消されたときには（取消キー等の操作）、氏名の入力状態に戻す。

【0036】これに対して、登録実行が選択されたときには、入力された入力バッファにある宛名データを、RAM23の宛名ファイルの格納領域の空エリアに格納すると共に、それに応じて、宛名ファイル管理テーブル23cも更新し（ステップ217）、その後、通常の入力画面を液晶ディスプレイ35に表示させて（ステップ

218）、宛名ファイルの一連の登録処理を終了する。

【0037】RAM23の宛名ファイルの格納領域は、宛名ファイル管理テーブル23cによって宛名ファイルが管理されているので、外字や他の一般的なファイルの格納領域と同じ領域にすることができる。このことにより、RAM23の効率的な使用が可能となる。

【0038】図5は、格納される宛名ファイルのデータ構造を示す説明図である。宛名ファイルは、宛名ファイルが始まる事を示す宛名ファイル識別符号（管理番号を含む）に始まり、その後、文字列の配置等を規定している書式属性があり、それ以降、各項目について、項目の識別符号に続いてその項目の文字データが存在する。

【0039】この実施形態の場合、宛名データについての書式属性は、装置が用意しているものがそのまま適用され、ユーザが変更できないようになされている（なお、文字毎の書体だけを認めるようにしても良い）。そのため、図5とは異なって、宛名ファイルに書式属性を盛り込まないようにしても良い。6項目のうち、文字列が入力されない項目（例えば、部署名や氏名）が生じることがある。このような文字列が入力されていない項目は、宛名ファイルにデータが挿入されない。このように宛名ファイルに挿入される項目の組み合わせが種々あるので、項目の識別符号が必要となっている。

【0040】登録時における宛名ファイル管理テーブル23cの更新は、以下のようになされる。該当する管理番号の登録フラグをオンにする。宛名ファイルが格納されたRAM23の宛名ファイルの格納領域の先頭アドレスを格納すると共に、そのデータ長を格納する。直近フラグをオンすると共に、今までオンであった直近フラグをオフにする。

【0041】なお、少なくとも住所1及び会社名の文字列が入力されているか、又は、少なくとも住所1及び氏名の文字列が入力されていなければ登録を実行できないようにしても良い。

【0042】（B-2）宛名ファイルの修正処理

次に、宛名ファイルの修正処理の具体的な内容を図6のフローチャートを参照しながら詳述する。

【0043】CPU21は、宛名ファイルの修正処理に入ると、まず、宛名ファイル管理テーブル23cにアクセスして、登録されている宛名ファイルが存在するか否かを判別する（ステップ301）。

【0044】登録されている宛名ファイルが存在しない場合には、CPU21は、登録ファイルがない旨のメッセージを液晶ディスプレイ35に表示させた後（ステップ302）、通常の入力画面を液晶ディスプレイ35に表示させて（ステップ303）、宛名ファイルの一連の修正処理を終了する。この際の通常の入力画面の復帰時には、入力バッファに宛名ファイルの処理指令時の文字列が残っているので、その文字列が表示される。

【0045】登録されている宛名ファイルが存在する場

合には、CPU21は、修正させる宛名ファイルの候補を液晶ディスプレイ35に表示させた後（ステップ304）、それが選択されたか、候補の変更が指示されたかを判別する（ステップ305）。候補の変更が指示された場合には、異なる登録ファイルを候補として表示させる（ステップ321、304）。

【0046】候補の宛名ファイルを最初に表示する場合においては、宛名ファイル管理テーブル23cの直近フラグがオンのものがオフである場合は、直近フラグにオフのものがオフである場合は、登録フラグがオフである管理番号が最も若いものを表示させる。候補の変更がカーソル移動キーで指示された場合には、登録フラグがオフである次に管理番号が若いものを表示させる。候補の変更が数字入力で指示された場合には、その入力番号を管理番号としているものを表示させる。その入力番号が管理番号にない（登録フラグがオフである）場合は、登録フラグがオフである、次に管理番号の大きいものを表示する（なお、これ以上大きな管理番号がない場合は、最も若い管理番号に戻り、同様の処理を続ける）。

【0047】ここで、宛名ファイルの候補の表示は、液晶ディスプレイ35が4行までの表示が可能なものである場合には、1行目に、宛名修正モードであること及び管理番号を表示させ、2行目～4行目のそれぞれに、RAM23の宛名ファイルの格納領域から読出した会社名、氏名、住所1の先頭側の文字列（液晶ディスプレイ35の表示可能な文字数分の文字列）を表示させて行なう（なお、該当項目のデータが存在しない場合にはその表示はなされない）。宛名データは、上述したように6項目からなるが、液晶ディスプレイ35が4行までの表示が可能なものである場合には、全ての項目のデータを表示させることができない。しかし、上述した会社名、氏名、住所1の3項目のデータを表示させれば、ユーザは、自分が修正したい宛名ファイルか否かの確認を十分に行なうことができる。

【0048】表示されている修正候補の宛名ファイルが選択されると、CPU21は、宛名ファイル管理テーブル23cのそのファイルについての先頭アドレス及びデータ長等に基づいて、RAM23の宛名ファイルの格納領域から宛名データを読み出して入力バッファに転送する（ステップ306）。これにより、宛名ファイルに関連する処理の指令時の入力文字列は消去される。

【0049】その後、宛名ファイルの登録処理とほぼ同様にして、郵便番号、住所1、住所2、会社名、部署名及び又は氏名の各項目について該当する文字列を修正させる（ステップ307～319）。なお、登録時においては、各項目の入力時に文字列は表示されないが、修正時には、各項目について文字列が表示されて修正するという相違はある。

【0050】氏名の修正状態において（ここでも文字列が実際に入力されているか否かを問わない）、選択キー

が操作されると、CPU21は、入力バッファにある宛名データを、RAM23の当該管理番号の宛名ファイルが格納されていた格納領域のエリアに修正後の宛名ファイルを格納すると共に、それに応じて、宛名ファイル管理テーブル23cも更新し（ステップ320）、その後、通常の入力画面を液晶ディスプレイ35に表示させて（ステップ303）、宛名ファイルの一連の修正処理を終了する。

【0051】修正時における宛名ファイル管理テーブル23cの更新は、以下のようになされる。該当する管理番号の登録フラグをオフのまま維持する。修正後の宛名ファイルが格納されたRAM23の宛名ファイルの格納領域の先頭アドレスを維持すると共に、変化したデータ長を格納する。直近フラグをオフにすると共に（オフを維持する場合を含む）、他の全ての直近フラグをオフにする。

【0052】なお、ステップ320からステップ303に移行して、通常の入力画面の表示を行なう場合には、ステップ306の処理により、宛名ファイルに関連する処理の指令時の入力文字列は消去されているので、文字が含まれていない入力画面が表示される。

【0053】（B-3）宛名ファイルの消去処理

次に、宛名ファイルの消去処理の具体的な内容を図7のフローチャートを参照しながら詳述する。

【0054】CPU21は、宛名ファイルの消去処理に入ると、まず、宛名ファイル管理テーブル23cにアクセスして、登録されている宛名ファイルが存在するか否かを判別する（ステップ401）。

【0055】登録されている宛名ファイルが存在しない場合には、CPU21は、登録ファイルがない旨のメッセージを液晶ディスプレイ35に表示させた後（ステップ402）、通常の入力画面を液晶ディスプレイ35に表示させて（ステップ403）、宛名ファイルの一連の消去処理を終了する。この際の通常の入力画面の復帰時には、入力バッファに宛名ファイルの処理指令時の文字列が残っているので、その文字列が表示される。

【0056】登録されている宛名ファイルが存在する場合には、CPU21は、消去させる宛名ファイルの候補を液晶ディスプレイ35に表示させた後（ステップ404）、それが選択されたか、候補の変更が指示されたかを判別する（ステップ405）。候補の変更が指示された場合には、異なる登録ファイルを候補に変更して表示させる（ステップ406、404）。

【0057】候補の宛名ファイルを最初に表示するときには、直近フラグのオフに係わらず、登録フラグがオフである管理番号が最も若いものを表示させる。候補の変更がカーソル移動キーで指示された場合には、登録フラグがオフである次に管理番号が若いものを表示させる。候補の変更が数字入力で指示された場合には、その入力番号を管理番号としているものを表示させる。その

入力番号が管理番号はない（登録フラグがオンでない）場合は、登録フラグがオンである、次に管理番号の大きいものを表示する（なお、これ以上大きな管理番号がない場合は、最も若い管理番号に戻り、同様の処理を続ける）。

【0058】ここで、消去時においても、宛名ファイルの候補の表示は、液晶ディスプレイ35が4行までの表示が可能なものである場合には、1行目に、宛名消去モードであること及び管理番号を表示させ、2行目～4行目のそれぞれに、RAM23の宛名ファイルの格納領域から読出した会社名、氏名、住所1の先頭側の文字列を表示させて行なう（なお、該当項目のデータが存在しない場合にはその表示はなされない）。

【0059】表示されている消去候補の宛名ファイルが選択されると、CPU21は、管理番号を点滅表示させると共に、会社名、氏名、住所1の先頭側の文字列を反転表示させ、横スクロールが可能な状態にし、カーソル移動キーの操作に応じて、横スクロールを実行させる（ステップ407）。これにより、会社名、氏名、住所1の全ての文字列をユーザが確認できる。

【0060】CPU21は、管理番号を点滅表示させ、会社名、氏名、住所1の文字列を反転表示させた候補の内容確認状態において、この候補が選択されたか取消されたかを判別する（ステップ408）。そして、取消された場合（取消キー等の操作）にはステップ404に戻って通常の候補表示を行なう。

【0061】これに対して、候補の内容確認状態においても、候補が選択されると、消去確認メッセージを表示し（ステップ409）、この表示に対して、ユーザが実行を選択したか取消したかを判別する（ステップ410）。実行が取消された場合（取消キー等の操作）には、ステップ404に戻って通常の候補表示を行なう。

【0062】実行が選択された場合には、CPU21は、選択された管理番号の宛名ファイルを消去した後（ステップ411）、通常の入力画面を液晶ディスプレイ35に表示させて（ステップ403）、宛名ファイルの一連の消去処理を終了する。この際の通常の入力画面の復帰時には、入力バッファに宛名ファイルの処理指令時の文字列が残っているので、その文字列が表示される。

【0063】ここで、消去処理は、宛名ファイル管理テーブル23cだけを操作することで行なっても、宛名ファイル管理テーブル23c及びRAM23の当該管理番号の宛名ファイルが格納されていた格納領域を操作することで行なっても良い。前者の場合には、登録フラグ及び直近フラグをオフにすると共に、先頭アドレス及びデータ長をオール0又はオール1にする消去動作を行なうことになる。後者の場合には、このような宛名ファイル管理テーブル23cの操作に加えて、RAM23の当該管理番号の宛名ファイルが格納されていた格納領域をオ

ーレ0又はオール1にする消去動作をも行なうことになる。

【0064】（B-4）宛名ファイルの複写処理

次に、宛名ファイルの複写処理の具体的な内容を図8のフローチャートを参照しながら詳述する。

【0065】CPU21は、宛名ファイルの複写処理に入ると、まず、宛名ファイル管理テーブル23cにアクセスして、登録されている宛名ファイルが存在するか否かを判別する（ステップ501）。

10 【0066】登録されている宛名ファイルが存在しない場合には、CPU21は、登録ファイルがない旨のメッセージを液晶ディスプレイ35に表示させた後（ステップ502）、通常の入力画面を液晶ディスプレイ35に表示させて（ステップ503）、宛名ファイルの一連の複写処理を終了する。この際の通常の入力画面の復帰時には、入力バッファに宛名ファイルの処理指令時の文字列が残っているので、その文字列が表示される。

【0067】登録されている宛名ファイルが存在する場合には、CPU21は、複写元の宛名ファイル（登録フラグがオンのファイル）の候補を液晶ディスプレイ35に表示させた後（ステップ504）、それが選択されたか、候補の変更が指示されたかを判別する（ステップ505）。候補の変更が指示された場合には、異なる登録ファイルを複写元候補に変更して表示させる（ステップ506、504）。

【0068】複写元候補の宛名ファイルを最初に表示するときには、直近フラグがオンのものがあればそれを表示させ、直近フラグにオンのものがなければ、登録フラグがオンである管理番号が最も若いものを表示させる。

30 候補の変更がカーソル移動キーで指示された場合には、登録フラグがオンである、次に管理番号の若いものを表示させる。候補の変更が数字入力で指示された場合には、その入力番号を管理番号としているものを表示させる。その入力番号が管理番号でない（登録フラグがオンでない）場合には、登録フラグがオンである、次に管理番号の大きいものを表示する（なお、これ以上大きな管理番号がない場合は、最も若い管理番号に戻り、同様の処理を続ける）。

【0069】ここで、複写時においても、宛名ファイルの複写元候補の表示は、液晶ディスプレイ35が4行までの表示が可能なものである場合には、1行目に、複写元であること及び管理番号を表示させ、2行目～4行目のそれぞれに、RAM23の宛名ファイルの格納領域から読出した会社名、氏名、住所1の先頭側の文字列を表示させて行なう（なお、該当項目のデータが存在しない場合にはその表示はなされない）。

【0070】表示されている複写元候補の宛名ファイルが選択されると、CPU21は、管理番号を点滅表示させると共に、会社名、氏名、住所1の先頭側の文字列を反転表示させ、横スクロールが可能な状態にし、カーソ

ル移動キーの操作に応じて、横スクロールを実行させる（ステップ507）。これにより、会社名、氏名、住所1の全ての文字列をユーザが確認できる。

【0071】CPU21は、管理番号を点滅表示させ、会社名、氏名、住所1の文字列を反転表示させた候補の内容確認状態において、この候補が選択されたか取消されたか否かを判別する（ステップ508）。そして、取消された場合にはステップ504に戻って通常の候補表示を行なう。

【0072】複写元候補の選択がなされると、CPU21は、複写先の管理番号（登録フラグがオフの管理番号）の候補を液晶ディスプレイ35に表示させた後（ステップ509）、それが選択されたか、候補の変更が指示されたかを判別する（ステップ510）。候補の変更が指示された場合には、異なる未登録管理番号を複写先候補に変更して表示させる（ステップ511、509）。なお、図8では処理ステップの図示を省略しているが、複写できない程に宛名ファイルが登録されている場合には、メモリが満杯の旨のメッセージを表示させた後、通常の入力画面を液晶ディスプレイ35に表示させて（ステップ503）、宛名ファイルの一連の複写処理を終了する。

【0073】複写先候補の管理番号を最初に表示するときには、登録フラグがオフである最も若い番号のものを表示させる。複写先候補の変更がカーソル移動キーで指示された場合には、登録フラグがオフである、次に管理番号が若いものを表示させる。複写先候補の変更が数字入力で指示された場合には、その入力番号を候補とし表示させる。その管理番号が登録済みである（登録フラグがオフでない）場合は、登録フラグがオフである、次に管理番号の大きいものを表示する（なお、これ以上大きな管理番号がない場合は、最も若い管理番号に戻り、同様の処理を続ける）。

【0074】複写先候補の選択がなされると、CPU21は、複写実行確認メッセージを表示し（ステップ512）、この表示に対して、ユーザが実行を選択したか取消したかを判別する（ステップ513）。実行が取消された場合には、ステップ509に戻って複写先候補の表示を行なう。

【0075】実行が選択された場合には、CPU21は、複写元として選択された管理番号の宛名ファイルを、選択された複写先管理番号の宛名ファイルとして複写した後（ステップ514）、通常の入力画面を液晶ディスプレイ35に表示させて（ステップ503）、宛名ファイルの一連の複写処理を終了する。この際の通常の入力画面の復帰時には、入力バッファに宛名ファイルの処理指令時の文字列が残っているので、その文字列が表示される。

【0076】複写時における宛名ファイル管理テーブル23cの更新（ステップ514内の処理）は、以下のよ

うになされる。複写先管理番号の登録フラグをオンにする。宛名ファイルが複写されたRAM23の宛名ファイルの格納領域の先頭アドレスを格納すると共に、そのデータ長を格納する。複写先管理番号の直近フラグをオンにする。これは、複写後修正されることが多いためである。一方、複写元ファイルについては、直近フラグがオンであればオフにすることを行なうだけであり、他のデータ更新は行なわない。

【0077】(B-5) 宛名ファイルの印刷処理

10 次に、宛名ファイルの印刷処理の具体的内容を図9のフローチャートを参照しながら詳述する。

【0078】CPU21は、宛名ファイルの印刷処理に入ると、まず、宛名ファイル管理テーブル23cにアクセスして、登録されている宛名ファイルが存在するか否かを判別する（ステップ601）。

【0079】登録されている宛名ファイルが存在しない場合には、CPU21は、登録ファイルがない旨のメッセージを液晶ディスプレイ35に表示させた後（ステップ602）、通常の入力画面を液晶ディスプレイ35に表示させて（ステップ603）、宛名ファイルの一連の印刷処理を終了する。この際の通常の入力画面の復帰時には、入力バッファに宛名ファイルの処理指令時の文字列が残っているので、その文字列が表示される。

【0080】登録されている宛名ファイルが存在する場合には、CPU21は、一部の宛名ファイルを印刷するのか全部の宛名ファイルを印刷するのかを問うメッセージを液晶ディスプレイ35に表示させた後、それに応じてユーザが指示した内容を取り込んで判別する（ステップ604）。

30 【0081】ここで、一部の印刷が指示されると、CPU21は、印刷対象の宛名ファイル（登録フラグがオンのファイル）の候補を液晶ディスプレイ35に表示させた後（ステップ605）、それが選択されたか、候補の変更が指示されたかを判別する（ステップ606）。候補の変更が指示された場合には、異なる登録ファイルを印刷対象候補に変更して表示させる（ステップ607、605）。

【0082】印刷対象候補の宛名ファイルを最初に表示するときには、直近フラグがオンのものがあればそれを

40 表示させ、直近フラグにオンのものがなければ、登録フラグがオンである管理番号が最も若いものを表示させる。候補の変更がカーソル移動キーで指示された場合には、管理番号の若いものから表示させる。候補の変更が数字入力で指示された場合には、その入力番号を管理番号としているものを表示させる。その入力番号が管理番号にない（登録フラグがオンでない）場合は、登録フラグがオンである、次に管理番号の大きいものを表示する（なお、これ以上大きな管理番号がない場合は、最も若い管理番号に戻り、同様の処理を続ける）。

50 【0083】ここで、一部印刷時においても、宛名ファ

イルの印刷対象候補の表示は、液晶ディスプレイ 3 5 が 4 行までの表示が可能なものである場合には、1 行目に、印刷対象であること及び管理番号を表示させ、2 行目～4 行目のそれぞれに、RAM 2 3 の宛名ファイルの格納領域から読出した会社名、氏名、住所 1 の先頭側の文字列を表示させて行なう（なお、該当項目のデータが存在しない場合にはその表示はなされない）。

【0084】表示されている印刷対象候補の宛名ファイルが選択されると、CPU 2 1 は、装填されているテープの幅が宛名ファイルの印刷に認められているものであることを確認した後（認められていないものであるときはテープの取替えを促す）、その選択された宛名ファイルを読み出して文字列が存在する中での最終項目を認識し（ステップ 6 0 8）、その最終項目が会社名又は部署名の場合には、その後に文字「御中」を自動的に付加し、これに対して、その最終項目が氏名の場合には、その後に文字「様」を自動的に付加する（ステップ 6 0 9）。

【0085】その後、CPU 2 1 は、宛名ファイルについて自動的に定まっている印刷属性（文字サイズはテープの幅による）に従って、宛名データを印刷バッファ 2 3 a にドット展開し（ステップ 6 1 0）、その後、サーマルヘッド 3 2 及びテープ・リボン送りモータ 3 1 を駆動して印刷を実行させ（ステップ 6 1 1）、最後に、テープカット機構 3 7 を駆動して印刷テープ部分を切断する（ステップ 6 1 2）。その後、一部印刷又は全部印刷の選択ステップ 6 0 4 に戻る。これにより、他の宛名ファイルの印刷にも移行可能となる。図 9 では、一部印刷時には、印刷処理が終了できないように記載しているが、一部印刷又は全部印刷の選択ステップ 6 0 4 において、取消キーが操作されると、印刷処理が終了する。

【0086】図 1 0 は、宛名ファイルの印刷処理の結果、得られたラベルの例を示すものである。図 1 0 は、会社名及び部署名の入力文字列がない場合の印刷結果である。この場合、図 1 0 (a) に示すように、残っている 4 項目（4 行）の文字列をテープの幅方向に同一ピッチで配置するように印刷しても良く、また、図 1 0 (b) に示すように、各項目のテープ幅方向の印刷位置を定めておき、文字列が存在しない項目については空白行として印刷するようにしても良い。

【0087】一部印刷又は全部印刷の選択ステップ 6 0 4 の判別の結果、全部印刷が指示されると、CPU 2 1 は、全部印刷実行確認メッセージを表示し（ステップ 6 1 3）、この表示に対して、ユーザが実行を選択したか取消したかを判別する（ステップ 6 1 4）。実行が取消された場合には、ステップ 6 0 4 に戻る。

【0088】全部印刷の実行が選択された場合には、CPU 2 1 は、宛名ファイル管理テーブル 2 3 c の格納内容に基づいて、1 個の宛名ファイルのデータを取り出す（ステップ 6 1 5）。その後は、その宛名ファイルのデ

ータについて、一部印刷の場合と同様な印刷処理を行なう（ステップ 6 1 6 ～ 6 2 0）。

【0089】現在対象となっている宛名ファイルについてのラベルが作成されると、CPU 2 1 は、全ての宛名ファイルについて印刷処理が終了したか否かを判断し（ステップ 6 2 1）、終了していない場合には、上述したステップ 6 1 5 に戻って、印刷が済んでいない宛名ファイルの取り出しを行ない、一方、全ての宛名ファイルの印刷が終了すると、通常の入力画面を液晶ディスプレイ 3 5 に表示させて（ステップ 6 0 3）、宛名ファイルの一連の印刷処理を終了する。この際の通常の入力画面の復帰時には、入力バッファに宛名ファイルの処理指令時の文字列が残っているので、その文字列が表示される。

【0090】(C) 実施形態の効果

上記実施形態によれば、宛名ファイルを宛名ファイル管理テーブルにより管理するようにしたので、以下の効果(1) 及び(2) を奏することができる。

【0091】(1) 宛名ファイルと、他の文字列ファイルをメモリ上の同一の格納領域に記憶でき、メモリの使用効率を向上できる。

【0092】(2) 宛名ファイルと他の文字列ファイルをメモリ上の同一の格納領域に記憶しても、両者を区別して管理できるので、宛名ファイルの抽出が容易である。

【0093】また、上記実施形態によれば、宛名ファイルを構成する宛名データの入力、修正に、フォーム入力方法を適用しているので、入力、修正を容易なものにできる。また、郵便番号に基づいて、都道府県名を自動発生するので、この面でも、宛名データの入力、修正を容易なものにできる。さらに、「様」又は「御中」の自動発生機能を設けたので、「様」又は「御中」を入力する必要はなく、この面でも、宛名データの入力、修正を容易なものにできる。

【0094】さらに、上記実施形態によれば、上述した効果と関連するが、宛名ファイルの一部印刷機能だけでなく、全部印刷機能をも設けているので、同一内容を多くの宛先に郵送するようなことに対応でき、テープ印刷装置の使い勝手を良好なものとしている。

【0095】(D) 他の実施形態

上述した実施形態の説明においても、他の実施形態を適宜説明したが、さらに以下のような他の実施形態を挙げることができる。

【0096】上記実施形態においては、宛名データの入力、修正がフォーム入力方法に従うものを示したが、一般的な入力方法で入力、修正させ、その入力文字列を宛名ファイルとして登録するようにしても良い。

【0097】また、上記実施形態においては、宛名ファイルの印刷処理で、「様」又は「御中」を自動的に付加するものを示したが、登録時や修正時（再登録時）に、RAM 2 3 に宛名データを格納する際に「様」又は「御中」を自動的に付加するようにしても良い。この付加処

理において、文字列の最後に、「様」又は「御中」がないことを確認してから、「様」又は「御中」を自動的に付加するようにしても良い。

【0098】さらに、上記実施形態においては、宛名ファイルについての階層を設けないものを示したが、宛名ファイルについて階層を設けるようにしても良い。例えば、第1グループの宛名ファイル（例えば会社関係）と、第2グループの宛名ファイル（例えば個人関係）とに階層分けするようにしても良い。

【0099】さらにまた、上記実施形態においては、宛名ファイルの印刷処理の種類として、1個の宛名ファイルの印刷を行なう一部印刷と、全ての宛名ファイルの印刷を行なう全部印刷を設けたものを示したが、他の種類を設けるようにしても良い。例えば、上述したあるグループの全ての宛名ファイルの印刷を行なう種類や、2個の管理番号を入力し、それら管理番号に挟まれた管理番号を有する全ての宛名ファイルの印刷を行なう種類を設けるようにしても良い。

【0100】また、上記実施形態においては、宛名ファイルの関連処理の選択によって宛名ファイルの印刷処理に進むものを示したが、登録、修正時において宛名データが表示されているときに、一般的な印刷キーの操作で宛名ファイルの印刷を行なうようにしても良い。

【0101】さらに、本発明は、テープ印刷装置に適用した場合に大きな効果を奏するものであるが、適用装置は、テープ印刷装置に限定されず、印刷媒体（転写媒体）の幅方向に制約があつて数行程度の入力文字列しか印刷を実行できない文字情報処理装置に広く適用することができます。例えば、入力された1行以上の文字列に係る凹凸を有するスタンプを作製するスタンプ作製装置に適用できる。スタンプ作製装置の場合、複数の宛名ファイルの印刷機能（転写機能）は不要である。

【0102】なお、「様」又は「御中」の自動付加機能は、印刷媒体の幅方向に制約があつて数行程度の入力文字列しか印刷を実行できない文字情報処理装置を越え、宛名文字列の入力、修正方法にフォーム入力方法を適用している文字情報処理装置に広く適用できる。

【0103】

【発明の効果】以上のように、本発明によれば、印刷媒体の幅方向に制約があつて、数行程度の入力文字列しか印刷を実行できない文字情報処理装置において、宛名ファイルと他の文字列ファイルとを同じ格納領域内に記憶する記憶手段と、管理番号と、当該管理番号に宛名ファイルが登録されているか否かを表す登録フラグと、当該

管理番号の宛名ファイルの記憶手段上の格納場所を表すアドレス情報と、当該管理番号の宛名ファイルが現時刻に最も近い前の時点での編集がなされたか否かを表す直近フラグとからなる宛名ファイル管理テーブルと、宛名ファイル管理テーブルを用いて、記憶手段の同じ領域内に記憶された宛名ファイルと他の文字列ファイルと区別して管理、編集する宛名ファイル編集管理手段とを有するので、宛名ファイルと、他の文字列ファイルをメモリ上の同一の格納領域に記憶して、メモリの使用効率を向上させつつ、かつ、両者を区別して管理できるので、宛名ファイルの抽出が容易にもなり、宛名処理に関する装置の使い勝手をより良好にすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施形態の宛名ファイルに関する処理の全体を示すフローチャートである。

【図2】実施形態の電気的全体構成を示すブロック図である。

【図3】実施形態の宛名ファイルの登録処理を示すフローチャートである。

【図4】実施形態の宛名ファイル管理テーブルの構成を示す説明図である。

【図5】実施形態の宛名ファイルの構成を示す説明図である。

【図6】実施形態の宛名ファイルの修正処理を示すフローチャートである。

【図7】実施形態の宛名ファイルの消去処理を示すフローチャートである。

【図8】実施形態の宛名ファイルの複写処理を示すフローチャートである。

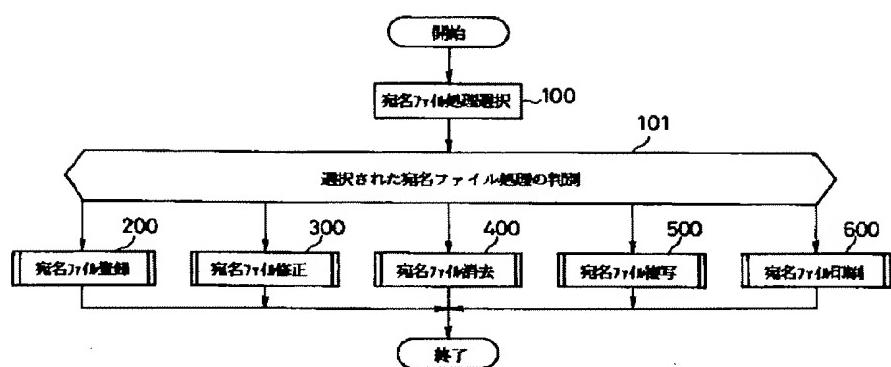
【図9】実施形態の宛名ファイルの印刷処理を示すフローチャートである。

【図10】実施形態の宛名ファイルの印刷結果を示す説明図である。

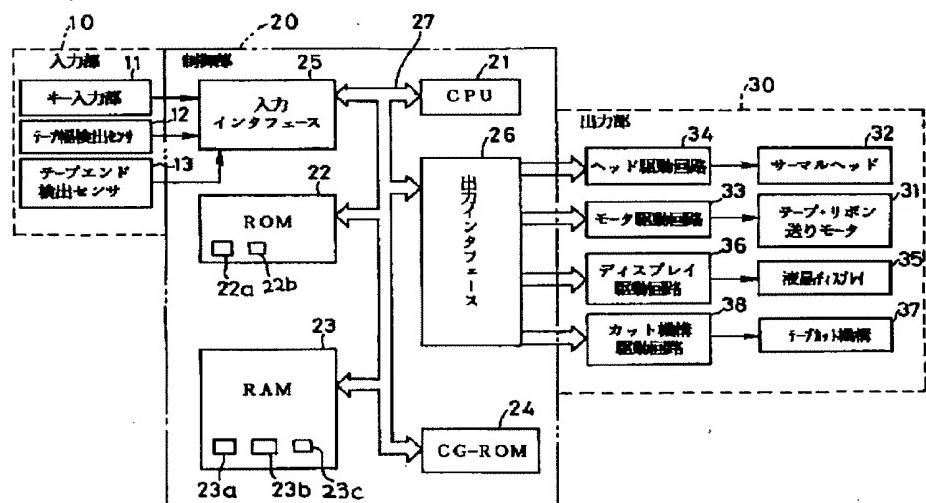
【符号の説明】

10…入力部、11…キー入力部、12…テープ幅検出センサ、13…テープエンド検出センサ、20…制御部、21…CPU、22…ROM、22a…宛名ファイルに関する全体処理プログラム、22b…郵便番号／都道府県変換テーブル、23…RAM、23a…印刷バッファ、23b…表示バッファ、23c…宛名ファイル管理テーブル、30…出力部、31…テープ・リボン送りモータ、32…サーマルヘッド、35…液晶ディスプレイ、37…テープカット機構。

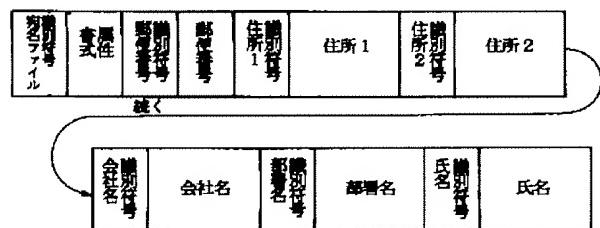
[1]



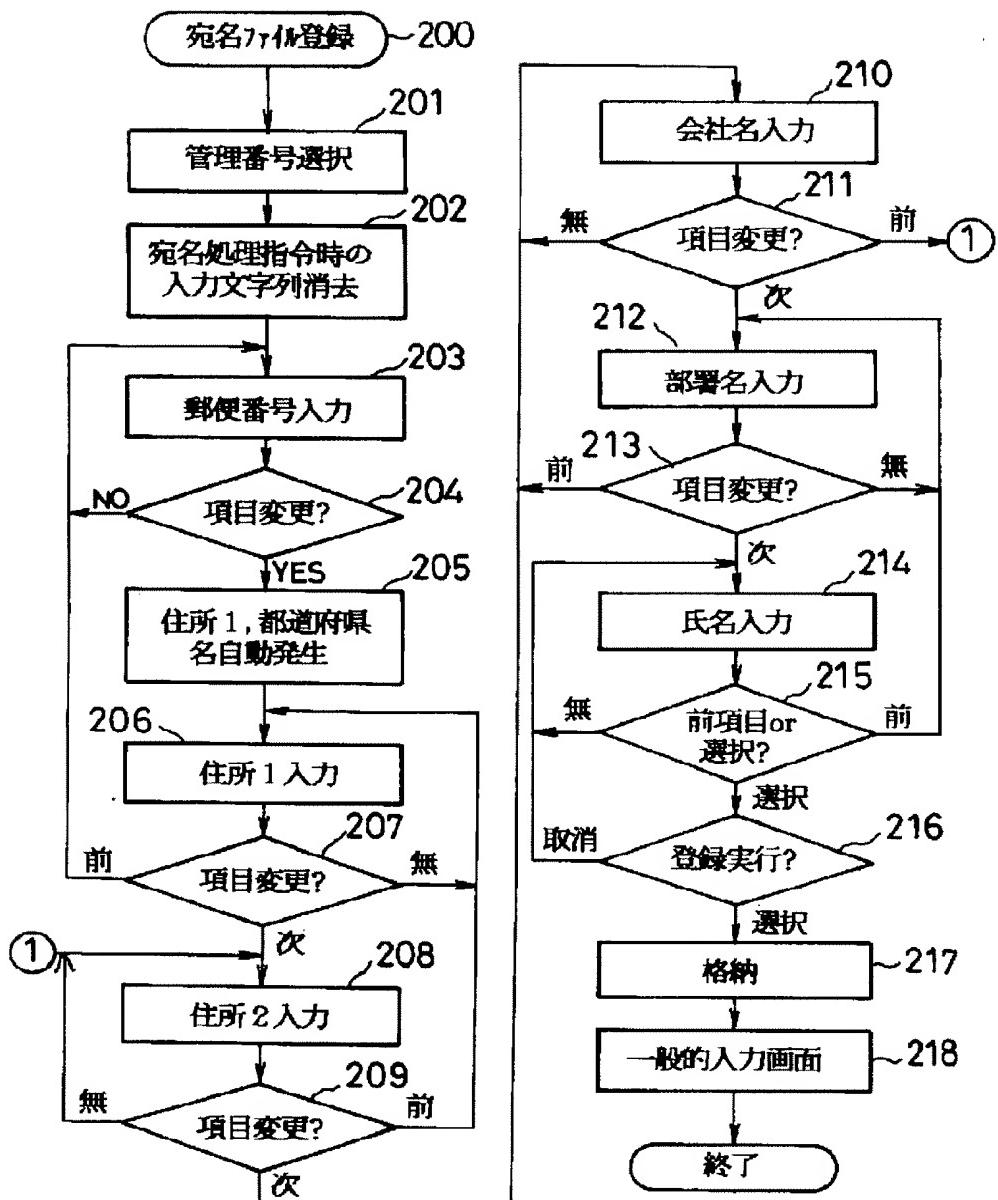
【圖 2】



[图 5]



【図3】



【図4】

宛名アドレス 管理番号	フラグ	先頭アドレス	データ長	フラグ
00				
99				
①①				
②②				

23c

【図10】

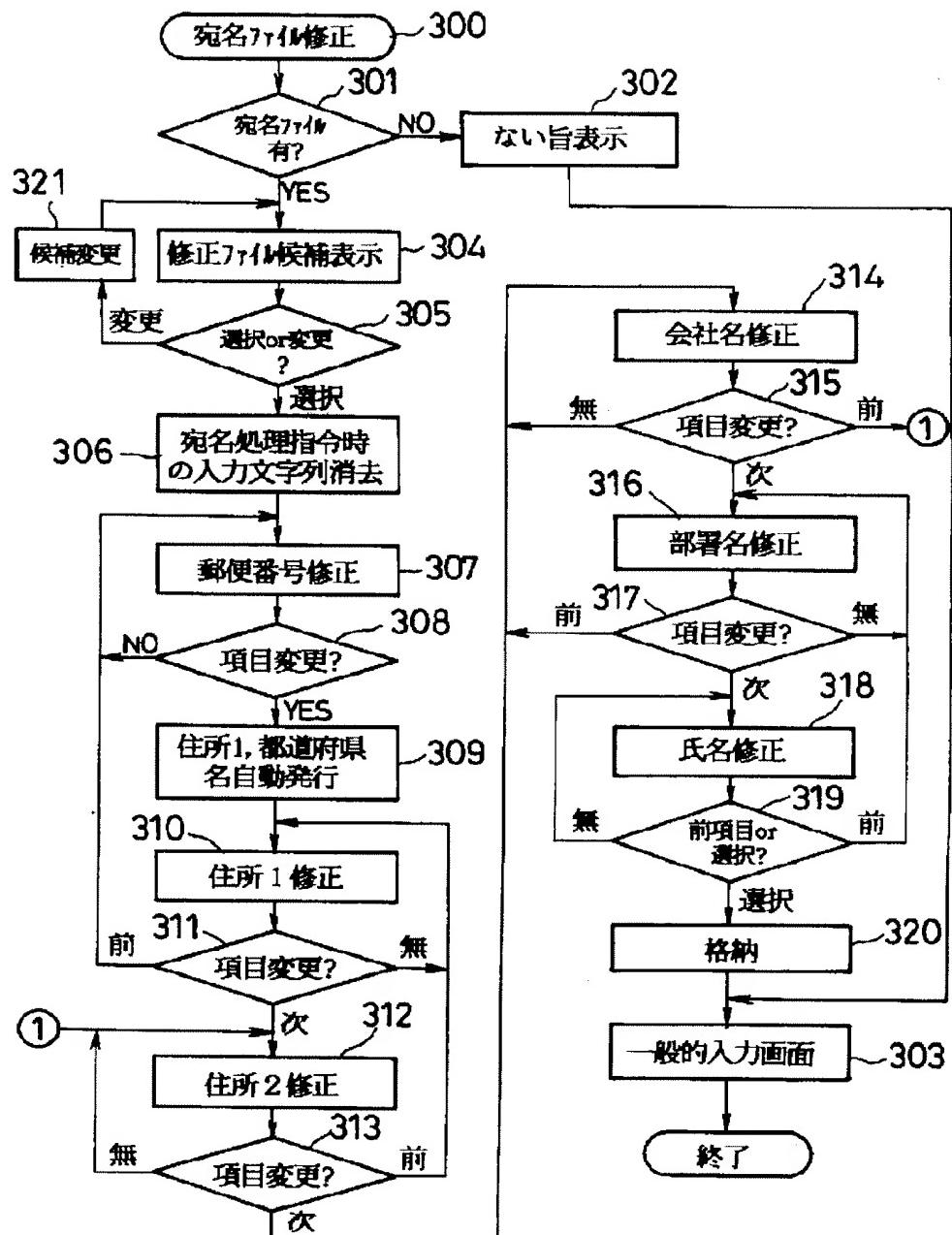
(a)

101
東京都千代田区東神田1-2-3
山田ビル202
山田太郎 様

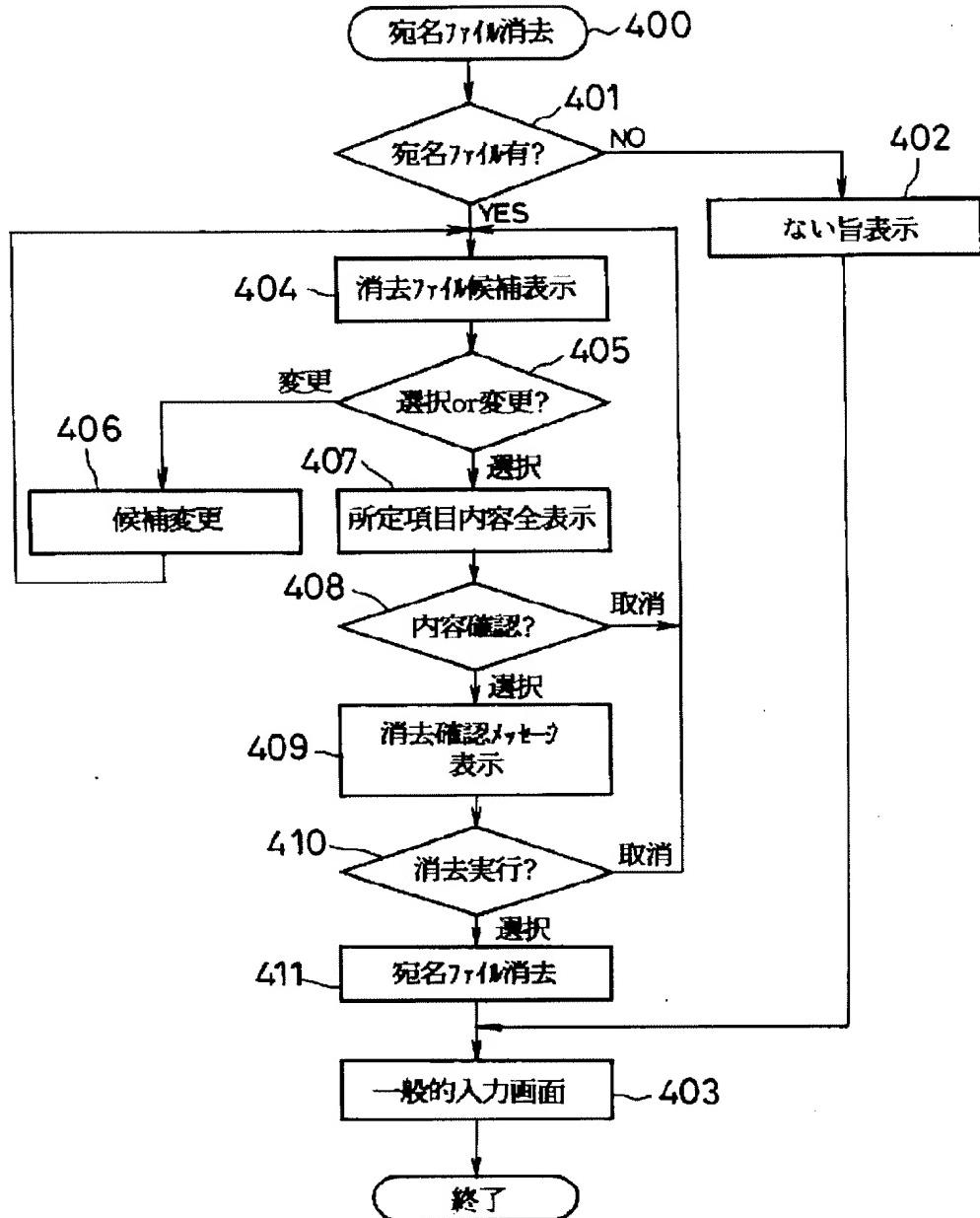
(b)

101
東京都千代田区東神田1-2-3
山田ビル202
山田太郎 様

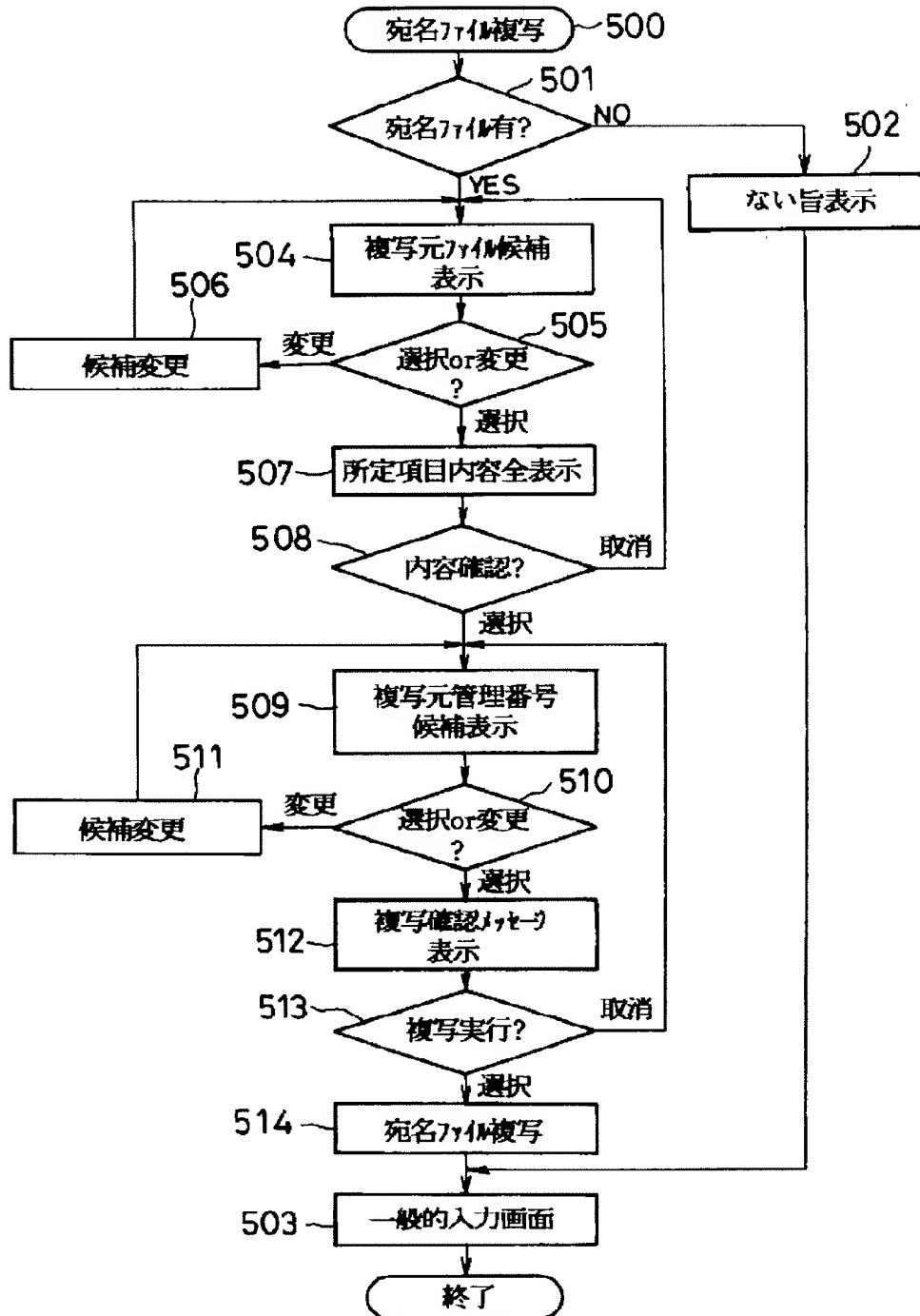
【図6】



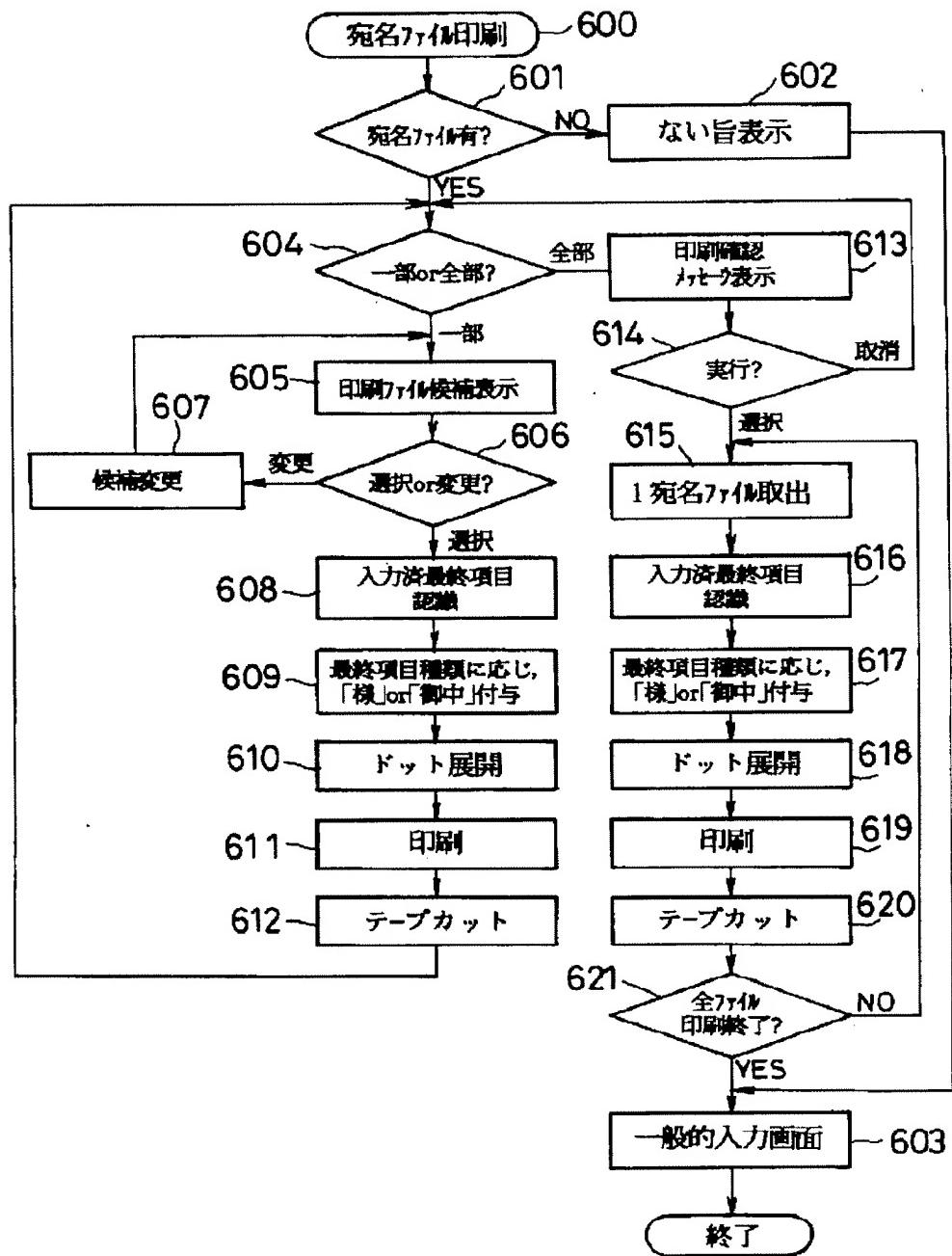
【図7】



【図8】



【図9】



【手続補正書】

【提出日】平成9年8月27日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項1】 印刷媒体の幅方向に制約があって、印刷可能な文字列の行数に制限がある文字情報処理装置において、
宛名ファイルと他の文字列ファイルとを同じ格納領域内

に記憶する記憶手段と、
管理番号と、当該管理番号に宛名ファイルが登録されて
いるか否かを表す登録フラグと、当該管理番号の宛名フ
ァイルの上記記憶手段上の格納場所を表すアドレス情報
と、当該管理番号の宛名ファイルが現時刻に最も近い前
の時点で編集がなされたか否かを表す直近フラグとから
なる宛名ファイル管理テーブルと、
上記宛名ファイル管理テーブルを用いて、上記記憶手段
の同じ領域内に記憶された宛名ファイルと他の文字列フ
ァイルと区別して管理、編集する宛名ファイル編集管理
手段とを有することを特徴とする文字情報処理装置。

【手続補正2】

フロントページの続き

(72) 発明者 亀田 登信
東京都千代田区東神田2丁目10番18号 株
式会社キングジム内
(72) 発明者 会田 智恵子
東京都千代田区東神田2丁目10番18号 株
式会社キングジム内

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】請求項6
【補正方法】変更
【補正内容】

【請求項6】 上記フォーム入力方法によって、新規入
力、修正入力された宛名文字列において、会社名、部署
名及び氏名の宛先の名称を示す項目のうち、文字列が存
在する宛名としての最終項目の種類に応じて、その最終
項目の文字列に適した敬称を表す文字を自動付加する敬
称自動付加手段を有することを特徴とする請求項5に記
載の文字情報処理装置。

(72) 発明者 倉科 弘康
長野県諏訪市大和三丁目3番5号 セイコ
一エプソン株式会社内
(72) 発明者 細川 豪
長野県諏訪市大和三丁目3番5号 セイコ
一エプソン株式会社内